

# トライアングル

2019  
秋・冬号

発行日/令和元(2019)年12月 発行/一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者/松上利男 編集/松嶋桂子  
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内  
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

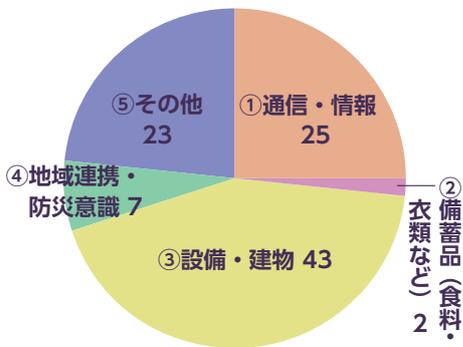
## 社会福祉施設における災害対策の 現状と課題 ～アンケート結果から感じたこと～



近年、地震や大雨、台風等の大規模な自然災害により、全国各地で甚大な被害が発生しています。大阪府においても、昨年の大阪北部地震と台風による被害を受けた事業所があり、日々の支援に加えて、復旧作業に追われたと報告を受けています。改めて、身近に災害のリスクを感じるとともに、防災対策を講じなければならぬことが急務となっています。

そこで、このような自然災害が発生した場合、日々の支援が中断されることなく、利用者の生活を支えていくために、「災害時に備えてどのような対策が必要なのか？」というテーマで、各事業所の災害対策の役に立てたらと思う、大阪知的障害者福祉協会に加盟されている会員施設にアンケートを実施させて頂きました。41施設より回答をいただき、その結果を左記の通りにまとめました。

### I. 災害時(地震・台風)において困ったことは何でしたか？ (数字は%、以下同)



①通信・情報

- 電話の回線がパンクしていて、利用者の方や家族、職員、関係機関すべて連絡がつかない状況であった。
- 正確な情報が入ってこない。また入ってきたりも共有しづらい。
- 連絡が取れなかったため、自治体の援助要請ができなかった。

②備蓄品(食料・衣類など)

- 職場実習を開始する利用者や車で待ち合わせをしていたが連絡がとれず、職場に近い職員が子どもを抱えながら奔走することを余儀なくされた。
- 食料と飲料水の備蓄はあったが、厨房用の水とお風呂の水が不足した。
- 停電により冷凍庫内のクリックフリーズ給食が全食廃棄となった(122食)。

③設備・建物

- 外壁とバテ、室内の壁紙などにひびが入った。
- 暴風により2階テラス物置が飛ばされ、施設の窓ガラスを突き破った。
- ガス復旧の際に、マニュアルを見ながら復旧作業を行ったが、施設設備に詳しい職員が少なく、スムーズに復旧作業を行えなかった。
- 電気錠が開錠のまま停電になったため、不審者の侵入防止や入居者の方の出入りが自由にならないように、各フロア1名の職員がドアにつきっきりになった。

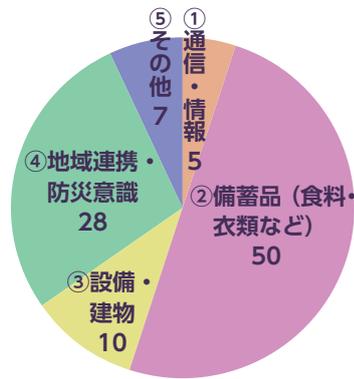
社会福祉施設における災害対策の現状と課題  
～アンケート結果から感じたこと～……………1

第38回スポーツフェスタ2019大阪  
天気の子! & ボウリング新会場! ……………4

●ちよつとつぶやきリレー●  
社会福祉法人向陽学園 施設心理士 山下珠穂……………4

- エレベーターが停止してしまい、2階、3階へ食事（温冷蔵庫）を移動できなくなり、職員が階段を使用して対応することになる。
- 建物が古く、台風19号の影響で屋根の排水溝が葉や枝で詰まり、雨漏りが発生したため、強度行動障がいの利用者がパニックになった。
- 貯水槽の配管が破損し、水道水が使用できずに断水となった。
- 水の確保が容易では無かった為、十分な清掃（特に）が大変であった。

## Ⅱ. 災害が起きた時、または想定して準備しておいてよかったことは何ですか？

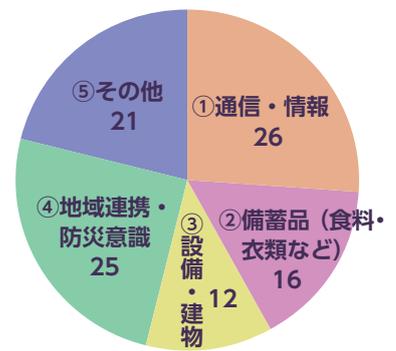


- 停電で水道のポンプが動かなくなり、水道が使用できなくなった。直結の水道を探し出して水は確保できたが、ほぼ丸一日停電していたので、トイレの衛生面を保つことになり苦労した。
- 停電の為、当日の給食のメニューを変更してカセットコンロで調理した。
- 気温が30℃を越える日が続いている中、停電でエアコンが使用できず、利用者の体調面が心配だった。
- ④地域連携・防災意識
  - BCP（事業継続計画）を作成していなかった。
- 被災時の対応マニュアルや復旧マニュアルがなかった。
- ⑤その他
  - 公共交通機関が運休となり、出勤または退勤できない職員がたくさんいた。木や建物が倒れ道路も通れなかった。
  - 納品業者（受注作業）の調整が必要であった。
  - 事業所を休みとしたので、報酬の請求ができないので収入減となった。

- ①通信・情報
  - 家族の協力を得て、災害伝言サービスの練習を行った。
  - セキュリティ会社と災害時のメールでの連絡が可能な契約を行った為、職員との連絡がつきやすくなった。
- 利用者の中には、テレビ等から情報を得る習慣がない方もおられるので、台風などある程度予測される場合は、繰り返し情報提供したこと。

- 発電機を使用して、通信手段を確保した。
- ②備蓄品 (食料・衣類など)
  - ペットボトルの水やアルファ米、缶詰やアレルギー用の食品を備蓄していたので、給食を担う職員が出勤出来なかった時に、現場の職員で対応することができた。
  - 調理の手間を考えて、すぐに食べることができるよう缶入りパンを購入。普段から熱中症対策などでお茶や水の備蓄はしていたので、軽食の備蓄ができたことで、通所後に災害が起きて帰宅するのが遅くなっても、対応ができるようになったと思う。
  - 調理ができない中、お菓子（バームクーヘン、カプリメイト、ゼリーなど）を朝食に活用できた。
  - 災害時の緊急措置を法人全体で定めて、市に届け出を済ませている。また行政との連携体制として、備蓄品を想定して、事前に市と協議を済ませている。
  - 介護用品の備蓄。
  - 炊き出し器具、自家発電機を用意していた。器具を動かせるように、日々行っている訓練。
  - カセットコンロ・ガスボンベ・ソーラー電灯・LED・ランタン及び懐中電灯などの照明設備を用意した。
- ③設備・建物
  - 携帯電話のポータブル充電器を用意していたこと。
  - 破損箇所などの修繕に必要な道具や材料を準備していたこと。
  - 台風21号で飛んだカーポートの屋根を補強し、飛ぶことが無くなった。
  - 園内の外部設置備品を室内へ移動し、保管することで散乱とガラスの破損が防げた。
- ④地域連携・防災意識
  - 法人内で、避難訓練を実施。消防署員の防災講話による知識が役に立った。
  - 職員連絡網やライン復旧等、さまざまな状況に応じたマニュアルの作成をしている。
  - 利用者の自宅をハザードマップで確認し、備えをしていたこと。
- ⑤その他
  - 災害時、登校日であったので、停電が続く施設から、環境の良い学校に登校できたことは良かった。
  - 損害保険に加入している。

### Ⅲ. 今後の災害に備えておくことは何だと考えていますか？



#### ① 通信・情報

- ・携帯電話が繋がりにくい状況での連絡手段の確保。
- ・情報の確認体制（被害状況や利用者・職員の安否確認）。

- ・通信網遮断（固定電話・パソコン等）を想定し、職員間・家族間での携帯アプリ（LINE）の活用。
- ・安否確認システムの導入（セキュリティ会社等の有料サービス）。

- ・最近では計画運休が多いので、テレビやインターネットで情報収集に努める。

#### ② 備蓄品（食料・衣類など）

- ・生活備品の充実（食料・照明器具・水・乾電池などの確保）。

#### ③ 設備・建物

- ・災害備品の定期的な点検（不足・破損・劣化の有無）。
- ・非常用自家発電機装置やソーラーパネルの設置。
- ・窓ガラスに、ガラス飛散防止シートや養生テープの貼り付け。

- ・居室の耐震対策（家具等）。

#### ④ 地域連携・防災意識

- ・BCP（事業継続計画）の策定。
- ・ハザードマップ、避難場所（経路）の確認。
- ・登園途中等、さまざまな状況時の避難体制。
- ・地域との連携（普段から地域の避難訓練に参加したり、障がいのある方を理解してもらえらる啓発活動）。
- ・施設の利用者だけではなく、近隣の被災者の受け入れという視点が必要。
- ・福祉避難所として災害マニュアルの作成。
- ・地域の福祉避難所となっているが、実際に対応できるか不安。

#### ⑤ その他

- ・防災士などの専門家による施設内研修。
- ・一事業所や同一法人の連携だけではなく、地域の連携を日常的に大切にすること。
- ・法人を越えた、支援員の応援体制の確保や職員連携を統括する機関の設置。
- ・自治体への緊急窓口、支援の要請基準と方法。
- ・震度●以上の地震があった場合には、日中活動は中止します等のルール化。
- ・被災後の清潔な住環境の確保（消毒等）。
- ・被災後の体調不良者への医療的ケア対策。

今回のアンケート結果を通して、いくつか見えてくるものがありました。1つ目は非常食や備蓄品など防災備品の整備や避難訓練を実施している施設が多く、“自助”の防災意識が高くなっている点でした。

2つ目は、“共助・公助”における地域連携や行政との関係性、各市区町村が打ち出しているハザードマップの活用、災害時の連絡体制など、実際の災害想定に見合った準備が課題として求められる点でした。

3つ目は、停電や断水などのライフラインの断絶、利用者や職員との連絡が取れず、ライフラインの復旧と通信手段の確保について対応に迫られた事業所が多かった点でした。

アンケートをまとめることで、各事業所における防災対策と課題について知ることができましたが、10月に起きた台風19号の影響で、被災された事業所では、「救援ルートが遮断され、避難することができなかった」「他事業所に利用者の受け入れを要請した」という事例を耳にしました。防災対策を講じていても、被害の規模によっては計画通りに進まない事態になりかねないことも想定し、事前に行政の協力を得ながら、他事業所と連携して、地域全体で支え合うシステム作りの必要性を感じました。

最後になりますが、今号の特集記事が、未曾有の災害に対して備えを考えておく重要性を、改めて考える機会となれば幸いです。ご協力ありがとうございました。

（広報委員 水津由依、高原良太、吉岡裕幸、吉村周一）

# 第38回スポーツフェスタ2019大阪 天気の神様！&ボウリング新会場！

10月19日（土）、陸上やフライングディスク、レクリエーション競技の会場であるヤンマースタジアム長居へ取材に伺いました。

ここ数年、会場へはスポーツフェスタの選手引率や取材で訪れていますが、今年の天気予報は雨模様…。当日はどうなるかとても心配でした。

しかし、朝を迎えると雲一つない晴天でした。選手はこの日を楽しみにしている方が多いので、ベストコンディションで臨めることを喜んでいました。応援に来る方も多く、応援する方たちもこの日を楽しみにしていることが伝わってきました。

支援学校や、個人参加の選手には、子どもの活躍する姿を楽しみに見に来られた保護者の方たちからの熱い声援が送られていました。

毎年、最後の4×100メートルリレーでは、会場が一体となって応援する様子が印象的です。一方、表彰台では、選手の嬉しそうな表情、恥ずかしそうな表情、片や悔しそうな表情に、今年も目を奪われました。大会が終わると、競技中とは一転して、「雨が本降りとなりました。まさに、スポーツフェスタに関わる全ての人の願いが届いた、素晴らしい一日でした。天気



20日（日）に行われたボウリング競技では、昨年までの会場が変更になり、新大阪イーグルボウルから弁天町グランドボウルに変わりました。

昨年までは競技フロアが分かれており、団体で参加する引率の職員は、選手を応援するのが難しかったのですが、今年は1フロアで、全選手を見渡すことの出来る広さになっていました。

選手も満面の笑みでプレイを楽しんでいました。引率の職員にはとても良かったと高評価でした。会場は、ピンを倒す音の迫力がより一層増し、応援者も含め、全体が一つとなれて良かったです。

（広報委員 高原良太）

## ちょっと つぶやき... リレー

社会福祉法人向陽学園  
施設心理士 山下 珠穂<sup>しほ</sup>

私は向陽学園に入職して8年目になる、施設心理士です。私が向陽学園に来た時には、障害児入所施設の心理士はまだ前例がなく、一から枠組みづくり、他職種の職員に受け入れてもらうための体制づくりに苦慮したことを今でも覚えています。現在では、障害児入所施設にも昨今の情勢により被害待



による措置児童が増加しています。知的障害だけでなく虐待関連による発達障害、愛着障害にも目が向けられるようになり、施設心理士も多岐にわたる対応を迫られるようになってきています。家庭において情緒面を適切に扱われてこなかった子どもたちは、行動上に課題を抱えていることも少なくはありません。そのようなニーズに他職種の職員や児童相談所、学校、医療等と連携を図りながら、個別の心理療法、療育、トラウマケア、心理教育（性についてや正しい立ちの整理）などを行っているところです。特に心理療法においては、守られた空間の中で、心理士との1対1の関係によって子どもの気持ちに寄り添い、子どもの語るエピソードを傾聴することを大切にしています。

次回は「まつのき園」の中川友紀さんをお願いします

### 編集後記

今号は、災害時に必要な対策について、アンケートをもとに特集を組みました。記事が皆様のお役に立つことを願っています。今後は、他の事業所との連携の視点をもった災害への対策を検討しておくことがますます重要になってくると考えます。（広報委員長 松嶋桂子）